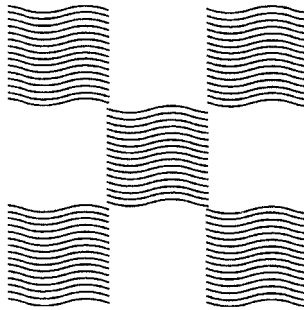


同志社社会学研究

「第5号」



2001年3月

●研究論文

都市—農村関係と都市移住者

鯨坂 学、湯浅 俊郎、星 眞理子

——石川県小松市出身者を中心として——

吉原 千賀、杉本久未子

Problems Concerning the Social Development of South Korea

Tamio Hattori

「虚構の時代」の大人像

吉岡 威史

——歌謡曲における「夢」使用法の諸類型をととして——

社会化とファミリーサポートシステム

川上 敦子

——アメリカ合衆国コロラド州メサ郡を例にとって——

●研究ノート

韓国における女性国会議員の特性

春木 育美

携帯電話利用とコミュニケーションの変容

伊藤 耕太

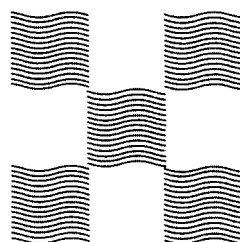
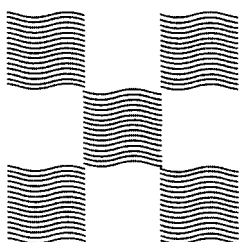
——研究動向の批判的検討——

高齢期パーソナル・ネットワーク研究における

分析視点の動向

央戸 邦章

——1990年を境として——



Doshisha Review of Sociology

No. 5 March 2001

CONTENTS

●ARTICLES

Urban-Rural Relations and Urban Migrants :

Studies of Those from Komatsu City in Ishikawa Prefecture

AJISAKA Manabu, YUASA Toshiro, HOSHI Mariko
YOSHIHARA Chika, SUGIMOTO Kumiko

Problems Concerning the Social Development of South Korea

HATTORI Tamio

Image of the Maturing Ego in “the Period of the Fiction-Dominated World” :

Meanings of “Dream” in Popular Songs

YOSHIOKA Takeshi

Socialization and Family Support System :

Case Study of Mesa County, Colorado, US

KAWAKAMI Atsuko

●NOTES

The Characteristic of Women Assembly Members in South Korea

HARUKI Ikumi

Mobile Phone Usage and Transformation of Communication :

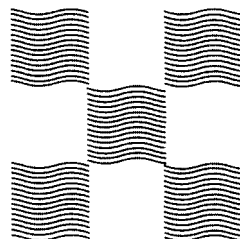
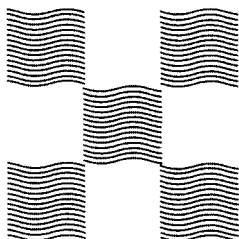
An Overview of Discussions

ITO Kota

Trends in Elderly's Personal Network Research :

Special Focus on Change after 1990

SHISHIDO Kuniaki



同志社社会学研究

NO. 5, 2001

<目 次>

●研究論文

- 都市－農村関係と都市移住者
——石川県小松市出身者を中心として——
鯨坂 学、湯浅 俊郎、星 真理子
吉原 千賀、杉本久未子 1

**Problems Concerning the Social Development
of South Korea**

Tamio Hattori 69

- 「虚構の時代」の大人像
——歌謡曲における「夢」使用法の諸類型をととして——

吉岡 威史 85

- 社会化とファミリーサポートシステム
——アメリカ合衆国コロラド州メサ郡を例にとつて——

川上 敦子 103

●研究ノート

- 韓国における女性国会議員の特性
春木 育美 115

- 携帯電話利用とコミュニケーションの変容
——研究動向の批判的検討——
伊藤 耕太 125

- 高齢期パーソナル・ネットワーク研究における
分析視点の動向
——1990 年を境として——
穴戸 邦章 135

研究室だより 147

博士・修士論文題目 148

執筆者紹介 149

「同志社社会学研究」編集規定 151

編集後記 152

「同志社社会学研究」編集規定

1. 本研究誌は同志社社会学研究学会の機関誌として社会学の研鑽に寄与し、また会員相互の研究交流に資することを目的とする。
 2. 掲載内容は以下のものとする（枚数：400 字）
 - 研究論文（40～60 枚）
 - 研究ノート（20～30 枚）
 - 学会・研究動向（10～20 枚）
 - 書評・紹介（10～15 枚）
 - 研究室だよりなど
 3. 編集委員は本学社会学専攻教員、同院生及び同卒業生の代表により構成される。
 4. 投稿者は本学社会学専攻教員、同院生、同修了・卒業生とする。
 5. 原稿は未発表のものに限る。掲載の可否は、専門のレフリー（本学教員＋外部の専門家各 1 名）の審査の結果を受け、最終的に編集委員が行う。
 6. 原稿の締め切りは 12 月末、発行は翌年 3 月とする。
 7. 執筆要項
 - 横書き、口語常体、完成原稿で提出。註や参考文献の書式は日本社会学会機関誌「社会学評論」に準じ、論文の最後に別々にまとめる。詳しい執筆要領は別に定める。
 8. 提出原稿の形式
 - 題目は日本語と英文タイトルをつけ、フロッピー 1 枚とハードコピー（40 字×40 行）を 3 部提出。（フロッピーは 1.4 MB を使用し、MS-DOS 及び MAC のテキストデータとする。）
- *その他の事項については、社会学の研究誌としての性格に鑑み、編集委員会が対応する。